

はじめに

## アンダーマイニング効果

地域活動実践センター長 重村 幹夫

以前ある番組で、経済学者とタレントの対談を視聴しました。この中で、ボランティアと報酬の関係について興味深いコメントがありました。確か「ボランティアに報酬を与えてしまうと却ってモチベーションが下がる場合もある」といった内容だったように思います。地域活動実践センターとしては、ボランティアをはじめ様々な地域活動をいかに活性化させるか、そのためにどのような援助が有効か、ということが関心事であるだけに、なかなか新鮮な内容でした。このようなモチベーションが下がる効果を「アンダーマイニング効果」と呼ぶそうです。wikipediaによると「アンダーマイニング効果」とは、「(undermining『弱体化』『土台を台無しにすること』)は、内発的に動機づけられた行為に対して、報酬を与えるなどの外発的動機づけを行うことによって、モチベーション（やる気）が低減する現象。例えば、好きでプレイしていたゲームのクリアに金銭的な報酬を与えられると、やる気がなくなってしまうなど。特に外からの働きかけがなくても勉強している子どもに外的報酬をあげるのは内発的動機づけが低下させることになる。報酬をもらえるという期待がないと、学習しなくなる可能性がある。」だそうです。

「アンダーマイニング効果」を考えると、必ずしも報酬を与えることが活動のモチベーションを高めることにはならないと言えそうです。学生等が本来持っているモチベーションが何なのかを考え、それをうまく引き出す場を設定する事の方が大切なのかもしれません。その一つとして、学生等と地域社会との連携を強めることが有効なのではないでしょうか。

地域活動実践センターは、平成18年に発足しました。その設立趣旨について、本誌“SOCIOUS”の創刊号には、「地域活動実践センターは、建学の精神『仁愛兼濟』を实践するため、短大が保有する知識等の資源を地域社会に提供し、地域社会の発展と文化の向上に資するためにある。それは、産業や行政をまきこんだネットワークをベースとする教育プログラムを構築し、地域をキャンパスとする教育活動、地域をフィールドとする研究活動の展開を通して全体の活性化を計ろうとするものである。」と記されています。

地域活動実践センターは、今後も地域と本学との橋渡しを果たしていきたいと考えています。その時に「アンダーマイニング効果」についても留意する必要があるかもしれません。